



専門家派遣による支援

今年度も専門派遣による支援ということで、第1回目は、南相馬市健康づくり課 作業療法士 星真琴さん、のびっこらんど愛愛 作業療法士 奥野たまきさん、第2回目は、南相馬市こども家庭課 上原麻美子さんより児童・生徒の様子を参観していただき、指導に生かせる助言をしていただきました。お二人の作業療法士さんからは、具体的な体の使い方や教材提示の仕方をいただきました。言語聴覚士 上原さんからは児童・生徒の皆さんの口角が上がっていて、充実した学校生活を送っていることが感じられるという感想を頂きました。大変励みになるお言葉でした。毎日マスクを着用していて、表情筋が乏しくなっていることを感じているところですが、遊びながら口腔機能訓練ができる物をご紹介します。お家でも取り組んでみてはいかがでしょうか。

☆Line ゲーム「Face Play」(顔を使ったゲーム。自分の顔がキャラクターに投影されて、口をパクパク開けるとアイテムを食べることができます。口を大きく開けたり動かしたりする練習ができます。)

☆「ことばを育てるオノマトペカード」(思わず真似しちゃう。思わず声が出ちゃう。ファイリングすれば絵本にもなります。)理解できる言葉があっても、なかなか発話につながらないお子さんに有効です。



学びの秋 一緒に学んでみませんか？

☆「自閉症の子と ともに生きて」(※チラシ配布致しました。)

主催:相馬地方基幹相談支援センター拓(ひらく)

日時:11月7日(土)13:30~15:30

講師:植草学園大学客員教授 野澤 和弘氏

会場:原町生涯学習センター「サンライフ南相馬」

☆「家庭で考える子どものやる気と自信の引き出し方」(※チラシ配布致しました。)

主催:南相馬市教育委員会

日時:12月1日(火)18:30~

講師:福島大学 教育推進機構・高等教育企画室教授 五十嵐 淳氏

会場:原町生涯学習センター「サンライフ南相馬」



☆本校親子学級すくすく主催講演会「子育てを楽しもう!~ペアレント・プログラムの実践~」

日時:12月3日(木)14:10~15:25

講師:福島大学 子どもメンタルヘルス推進事業室 特任教授 佐藤則行先生

会場:本校ランチルーム

(子どもへのかかわり方で悩んでしまうことはありませんか。よい行動は褒めて増やし、良くない行動は放っておき、危険な行動は叱る。そんなかかわりの基本を学びます。)



LGBTからSOGI(ソジ)へ

これまでの歴史の中で、人種、性別(女性)、障がいの有無による差別をなくそうとする人権擁護の活動がなされてきたわけですが、最近ではジェンダーに関する差別をなくそうという動きが活発化してきています。多様性=ダイバーシティ、ソジハラなどの言葉を聞く機会が増えてきました。先日、福島県男女共生センター主催ダイバーシティ理解促進事業講演会に足を運び、トランスジェンダー当事者でもある早稲田大学GS(ジェンダー&セクシャリティ)センター職員 渡邊 歩氏の講演を拝聴しました。

LGBTとは、性的少数者を包括する言葉で、人口の3.3%~10%とされています。例えるなら福島県に住む「佐藤さん」(5.8%)ほどいる計算となるそうです。

性の構成要素としては、個人の性の在り方と、社会の性別の規範(戸籍、こうあるべきといった性別役割)があり、その相互作用によって成り立ちます。

学業も運動もよくでき優秀だった渡邊先生ですが、第二性徴の頃から苦しみ、死にたいと思うこともあったそうです。データとしても、性的少数者は、そうでない人に比べメンタルヘルスの面で問題を抱える割合が高いのです。特別な権利ではなく、婚姻する権利、社会保障を受ける権利、安全にトイレを使う権利など当たり前のことを、その属性にあることで不当な扱いを受けない権利を享受できる社会になってほしいと話していました。

もしも当事者が近くにいるとき、周囲の人ができることは何でしょう。①「いる」という前提で考えたり行動したりすること、②肯定的な発言をすること(「ホモネタとかもう古いよ」など)、③できれば不要な男女分けや制度の見直しや変更(女子の制服にスラックスを導入するなど)など行動を起こすことなど挙げられました。もしも相談を受けたら情報共有に気を付けていくことが必要で、共有には本人の同意が必須です。

「SOGI」とは、性的指向(男性を好きか、女性を好きか)、性自認(自分を男性だと思っているか、女性だと思っているか)を指すので、全員が含まれる言葉です。ちなみに、割り当てられた性別と性自認が一致する人は「シスジェンダー」といいます。普通とそれ以外、マジョリティ(多数派)とマイノリティ(少数派)といった捉えからは偏見が生まれます。しかし、いつか自分も何らかの形でマイノリティになったとき、その偏見を自分に向けるのではないかと先生は言います。また、偏見は無知からも生まれます。特に30代以上の人は、学校教育の中で学んできていないので、正しい情報を取り入れ学ぶことが必要です。



最後に補足として、過去に受けたという質問の中からこんなお話をされました。

Q:性的少数者は自然に反するのでは?

A:「正しい」「正しくない」とジャッジするものではなく、そこにあるものであり、「女性は子どもを産むべきだ」といった性的役割に関する価値観から来るものである。

Q:日本における伝統的な家族の在り方を否定するものではないのか?

A:家族の概念は国によっても時代によっても変わる。人は出産という生産性のみで決められるものではない。

同性婚を認めている国でも、出生率に有意差はない。

障がいへの差別について、保護者の方も教員も周囲の人も、常日頃考えて取り組んでいることですが、この講演を通して、多様な性についても私たちは学んで知り、「人権擁護」の観点で行動しなければならないのだと感じました。